

どうもありがとうございます。紹介のときに何度も名前を囁んでしまう。非常に覚えにくい名前です。レイ  
レイシャ マルコ、落語家でございます。よろしく願い申し上げます。

黒岩会長と以前知り合いにならせていただきまして、今回こちらRCの新年会に出て一言もの申して  
ほしいと言われたので、特に私が皆様にも申すというようなおこがましいことは出来ないですが、ロー  
タリーの精神というのは「世界奉仕」ですよね。「奉仕」というと漠然としておりますので、身近な応援し  
ていただくというのが私の願いでございます。(はい、わかりました！)お早いご祝儀でありがとうございます。

堅苦しくならないで、落語というのは日本の昔からの芸能でございますので、肩の力を抜いて聞いて  
いただければと思います。一応先ほどご紹介がありましたけれどもNHK新人演芸大賞というのを取らせ  
ていただきました。日曜日 5 時半の「笑点」の誰かに何かあれば私が入る可能性があるということです。  
その日が来るのを心待ちにしているわけですが(拍手)、まあ拍手はしなくていいのですが。拍手は結構  
です。拍手は「早く死ね」と言っているようなものですから。(笑)歌丸師匠が早くお亡くなりになるという  
ことでございますが。ただ、予兆がございましてね、福井県のほうで歌丸師匠がお仕事をされたそうで  
すが、お寺さんの集りでね、お客さんは全員お坊さんで。

落語が終わりまして、では歌丸師匠、車を回しますので控え室でお待ちください、ということで歌丸  
師匠が控え室で待っている。しばらくすると襖がスッと開いて、お坊さんが一人入ってきて「歌丸師匠、  
お迎えがまいりました」と。(笑)

まあ、お迎えには違いないのです、空港までの車のお迎えが来たわけですから。で、歌丸師匠が車  
に乗り込みまして出発しました。お客様は全員お坊さんですから…「合掌」して…見送りました。ま、運  
転手さんが気を利かせたのでしょかね、クラクションを「パーン」と。(笑)したのだそうでございます。  
ま、歌丸師匠、200 歳までは生きるんじゃないかと思えますが。私が入る余地はないのじゃないかなと  
思ったりするんですよ。

エー、落語の世界というのは、やっぱり、この旧態依然としておりますから。私がRCに入りたいと言っ  
ても、なかなかね、誰かを雇用しているわけじゃないですし。

まず入門からして違います。3 回断る。私も鈴々舎馬風(れいれいしゃばふう)という師匠に入門する  
ときに 3 回断られました。何故かという「給料は出ないよ。休みもないよ。ブラック企業だよ。それでも  
来るかい?」、「ハイ付いて行きます」。ま、これを試しているのですね。しかも師匠の言うことには逆らっ  
てはいけない。縦社会でございます。もう師匠は糖尿病で立ちませんが、立てなきゃいけない。縦社会  
でございますから。これが大変なのでございます。

私が入門したのが 2003 年でございますから、2004 年に、なんでございましょう、「冬のソナタ」とかい  
うお隣の国のドラマが流行りまして、おかみさんが洗脳されてしまったのですね。大変でございます。そ  
の話しかなくなりまして。あれは何なのでしょう。もうね、返事もしなくなりまして。「おかみさん、大事  
なお話があるのですが」と言っても返事もしない。洗脳されてしまいまして。…もしかしてと思ひまして「オ  
モニ」と言う「なあに」と言うのです。大変でございます。

今はきな臭い世の中でございます。北朝鮮が水爆実験をしたという。許せないですね、本当に。あ  
の、ちょっと不謹慎ながらあその国のおばちゃんのアナウンサーが力いっぱいしゃべるのは、ちょっと好  
きなですね。大変不謹慎で申し訳ないんですが。力いっぱい、「…とか!…とか!…スミダ!」と言  
うのがちょっとだけ好きだったりするのでございます。

日本語も力いっぱい体中使ってしゃべると向こうの国営放送みたいなふう聞こえるのです。これは  
本当なのです。「貴方の奥さんはハムみたいな顔をしていますね」と言うそう聞こえるのです。「かみさ

ん、ハム似だ！」。「お兄ちゃんトイレが長いよ」、これも聞こえるのでございますね。「あにやん、早よせよ！」。「一番上の兄は父と母と公園で生活をしています」、これも聞こえるのですね。「長男、両親、ジャングルジムに住むダ！」間違いなく聞こえるのですね。

えー、言われるのです。落語家の世界は厳しいのでしょ、とか破門になっちゃうんでしょとか。言われるのですが、意外とそうでもなくてですね、割とすぐには破門にはならないんです。師匠を殺しかけた人がますけどね、破門になっていない。

林家正蔵(はやしやししょうぞう)師匠っていらっしゃいますよね、昔のこぶ平でございます。今は落語協会の副会長でございます。世も末でございます。聞かなかったことにしていただきたいと思います。弟子に殺されかけたのです。入門したての弟子が車の運転をして車庫入れをする。ガチガチに緊張していたんで、優しいですね、こぶ平師匠、オレが後ろを見ててやると。窓を開けて首を出して「オーライ、オーライ」とやってくれたのですね。弟子は入門したてでガチガチに緊張してましたから頭が真っ白になってしまい、何故かパワーウィンドーを閉めてしまった。(笑)こぶ平師匠、首出してますから。ウィーンと閉められて。「アー、死んじゃう、死んじゃう、死んじゃう」と。ギロチンで殺しかけたのです、師匠を。それでも破門にならずに今年その弟子は真打が決まっているのです。ゆるい社会でございます。

笑福亭鶴光(しょうふくていつこう)師匠っていらっしゃいますね。「鶴光でおまっ」と下ネタばかり言うおじさんですが、あそこの弟子もとんでもないことをしたのです。大阪出身・東京で入門したので、弟子の笑福亭羽光(しょうふくていうこう)という方、顔と名前が一致しない。どうしたかという小さなメモに師匠方の名前を書いて。自分だけわかるようにハゲとかデブとかメガネとかロクなことを書かない。特徴を書き込んで、あ、この師匠はこの人だなと特徴をメモで見ながら楽屋で働いていたのです。あるときメモ帳を落としてしまった。で、ある人に拾われてしまった。悪いことに笑福亭羽光と名前を書いていたのです。「なんだ、羽光のメモ帳があるじゃないか」なんだと思って見ると、師匠方の名前のところハゲとかデブとかメガネとかロクなことを書いていない。オレのことは何て書いてあるのだろうな、と見ると「老人」と書いてあった。みんな老人なのだと怒られたりしてね。

きわめつけは林家木久扇(はやしやきくおう)師匠。あの笑点の黄色いおじさんですよ、ラーメンのおじさんですよ。あそこの弟子は落語会の後にラーメンを売らなければいけないという、そういう仕事がありましてね、これを売るのがすごくまい弟子だった。普段の出来は悪いのですけどね。お寺の落語会で落語が終わって表でラーメンを売ったらとんでもなく売れた。「木久蔵ラーメン」の箱が飛ぶように売れた。お金を小さいダンボール箱に入れていたのですが、お金の重みでダンボールの底がパカーンと割れちゃうくらい売れた。ただちょっと出来の悪い弟子ですから、何故そこに置いたのかわからないのですが、その箱を賽銭箱の上に置いていたのですね。重みでパカーンと割れたら、バタバタと全部飲み込まれてしまった。ま、そんなのでも破門にはならない。実にいい社会なのでございますよ。

11日からは新宿末広亭にも出演しておりますので、是非寄席のほうにも足を運んでいただければなと思うのでございますが。お客様はお年寄りが多いですね。お年寄りの話なんかうかがうと面白いですよね。知り合いのおばあちゃんですが、80歳を過ぎて水泳を習い始めたのですね。80歳を過ぎているんですよ。で、お嫁さんが聞いたのだそうです。「おばあちゃん、どうして80過ぎてから水泳なんか習い始めたの？」と。すると「あたしゃあね、三途の河を泳いで渡ろうと思っているんだ。だから今から稽古してるんだ」。そんなことを言われましてね。それを聞いてお嫁さんが真っ青になって、すぐに水泳のコーチのところへ駆け寄りましてね、「先生、うちのおばあちゃんに水泳を教えても構わないのですけど。お願いですからターンだけは教えなくてください」。(笑)

おばあちゃん、いよいよおめでたくなりまして、三途の川まで来たそうですが、渡し舟というのがありまして、「あ、どうもおばあちゃん、お疲れ様でした。乗っていかれますか？」、「いいよ、わたしゃ泳ぎを覚えてきたから」。ドボンと飛び込んで三途の川をクロールで泳ぎきって、向こう側に渡ったのですが、こ

のおばあちゃんのエライところは肌身離さず小さいスコップを腰にぶら下げながら来た。おばあちゃん、その小さなスコップを取り出すと三途の川の下をトンネルを掘り始めた。ザクザク、ザクザクと。三途の川にトンネルを掘り始めてこっち側に戻ってきて生き返ったのですね。そのときのトンネルに名前が付いておりまして、これを「生還トンネル」といいます。(笑)

くだらないお話でございまして、まことに申し訳ないでございしますがね。えー、だからやり易いところ、やり辛いところがございます。私もいろいろなところへ伺いますのでね。やり辛かったのは葬儀屋さんの仕事でございましてね、馬るこさんのために最高級の高座をご用意しております、と。なんだろうなと思って伺いますと、人がひとり入れそうな箱の上に座布団が置いてあり、その上でやれと言われて。こっちは断れないものですからやりましたよ。社長さんがいないなと思いながらやってたのですよ。で、落語にこういう仕草があります。扇子で音を立てる、これは戸を叩く音。これはもう日本独自の文化ですが、「トントントン。いるかい？」て。お茶目の社長さんですっと中に隠れていたのです。下から「いるよ」って。「ワー！」って。びっくりしちゃいますよ、本当にね。

あとね、お子さんは残念ながら集中力が途切れちゃうのですね。学校寄席なんかもよく行くのですが、20分もたないしね。男の子なんかここにアゴを乗せます。「なんで、マルコって言うの？」って。殴ってやろうかと思えますよね。殴るわけにいかないから「え、丸いからマルコっていうのだよ」と。しゃべっているとザワザワとしてくるんですね、集中力が途切れてくるんですね、叫び出すんですよ、先ほどの男の子なんか。「先生！つまんない！」そうすると先生が怒り出すのです。「我慢しなさい。先生も我慢してるのだから」(笑)針のムシロの中で落語をやったりしているんです。なんとか覚えていただくとうと「ジュゲム」をやったりするとちょっと喜んだりする。終わらして先生の車に乗ります。「じゃあ、馬るこさん、駅まで送りますから」。「じゃあ、お願いします」。車が走り出しますと「なんでマルコって言うの？」と言ったあの男の子が走ってくるんです。ミラーで見えるんです。「待って！」って言うてるのです。彼が僕に何か言いたいことがあるようで、「ちょっと止めてください」と。「あ、わかりました」と止める。「どうしたの？」と聞いたら「ハァ、ハァ、ハァ…バアカ」と。(笑)殴っておけばよかった(笑)やっぱりこうやってちゃんと聞いていただけるお客様が最高でございまして。なんか私を見ないで後ろの壁を見ている方がいらっしゃるのですね、たまにはね。目の焦点が合っていない方もいらっしゃるのです。こうやってちゃんと理解して聞いていただける、これがいいんですよ。落語というのは想像力を使う芸能でございまして。例えばこれは扇子でございまして、扇子というのは風を送るだけのものではないんです。こうやって閉じた状態で使うとお箸に変わるのです。何か食べますから、何を食べているのか当ててみてください。

「フゥ、フゥ、フゥ。ズルズルズル」はい、これ何でしょうか？「鍋焼き」、「そば」。正解は「坦々麵」でございまして。こう持つとまた違うんですね。これは何でしょうか？「キセル」。惜しい、これは「しゃぼん玉」です。(笑)やっぱり想像するということは脳の活性化につながります。

人間の脳というのは二つに分かれています。右脳と左脳。自分が右脳人間か左脳人間かを知るということは健康への第一歩でございまして。簡単です。胸の前で自然に手を握ってください。自然に手を握ったときに右手の親指が上にくる方、ちょっと手を上げていただけますか。半分くらいですね、皆さんは左脳人間でございまして。人間の左脳は右半身を使いますね、左脳を沢山使われる方は自然と右手の親指が上にくる。こういう方はどういう方かという、論理的思考に優れた方。物事を順序よく筋道立てて考えることができる大変頭の良い方。

それでは左手の指が上にくる方いらっしゃいますか。皆さんはスケベな方です。(笑)右脳人間と言われていますがどちらの方も落語を聞いていただけると体にいいこととございまして。

私も皆様の前で落語をやる新年一発目でございまして、安物の着物を着て出てこれないわけです。なにしろチャンピオンでございまして。笑点の若手のメンバーでございまして。見えないかもしれませんが、これは100%のポリエステルでございまして。ごくごく古いものでございまして。

昔というのはこれは車のない時代でございまして、何か物を売ろうという担いで歩かなければならなかった。そんな時代、お魚屋さんもそうです。もちろん店を構える、これはお金が必要です。ロータリークラブの人であれば店はすぐに構えられます。なかなか個人では無理です。ではどうしたかという、ハンダイという桶に魚を入れて担いで売って歩いたんだそうです。イワシならイワシ専門に売る方もいまして、イワシ、イワシと言って売るとあまり新鮮に聞こえないというので、どうしたかという、イワシの下に「コ」をつけて「イワシコ」と弾むように売ったんだそうです。「イワシコ、エー、イワシコ、エー、イワシコ」。たまたま後ろを粉物ってございましてね、小麦粉とか片栗粉とかフルイにかけて申しますが、そのフルイ屋さんがたまたま後ろを通りかかりまして、「イワシコ、イワシコ、イワシコ」、「フルーイ、フルーイ」。「おい、お前なんでオレのイワシを古いつて言うんだい」。「いやいや、俺フルイ屋なんです」。「フルイ屋？もっと離れて歩けよ」。「いや、お得意様が急いでいるもんで」。「違う所歩けよ」、「いや、急いでいるんで」。「離れて歩けよ」。「イワシコ、イワシコ」、「フルイ、フルイ」。「じゃお前が前を歩けよ」。「わかりました」。「フルーイ、フルーイ」、「イワシコ、イワシコ。同んなじだよ、バカヤロウ」。どうしようかなって二人で喧嘩をしていると通りかかりましたのが、ヤカンですとか鍋ですとか金物、これが底が抜けたとしてもリサイクルいたしまして、これを買取専門で歩いている方がいたのだそうです。「どうされました？」と。「こういうわけで俺とこいつが並んで歩いていると俺のイワシが古いみたいに聞こえるんだよ」。「あ、そうですか、それじゃ私がその後ろを付いて歩きましょう」。「いいのかい？」「イワシコ、イワシコ」、「フルイ、フルイ」、後ろから「フルカネー(古金)、フルカネー(古かねえ)」。非常にくだらない話でございます。

お蕎麦屋さんでもそうですね。夜になりますと夜鷹蕎麦というのが出たのだそうですね。こんなお店がありまして、七輪があってお湯がグラグラ湧いていて、ひっきりなしに麺が入っていて具が入っていて、後ろにどんぶりが重ねてあったりして。どうして夜鷹蕎麦と言ったかという、夜鷹が出る時分に店を出したから夜鷹蕎麦といった。夜鷹というのは何かという、暗がり男性からお金をいただいて、ゴザを敷いて男性と楽しいことをするという私が昔働いていた吉原という所を卒業した方がそちらに行かれる。何しろ吉原というのは明るいです。明るい若くて美しい方がモテル。それを段々と卒業していくんです。AKBと同じです。大島ゆうこちゃん、78歳というのがあまりにはいけない。段々と卒業して夜鷹になるという。吉原ね。今は違いますよ。今は送迎車とかありますからね。送迎とかします。無線もきくんですね。男性が女の子に会いに来てますからいい格好してくるんです。格好をお店に伝えるわけです。鶯谷駅南口でこういう格好している田中です、と伝えるんです。それが無線にいきまして、「鶯谷駅南口ご乗車田中様。緑のズボン、緑のジャンパー、サングラス」と言うんです。そんなヤツないだろう。緑のズボン、緑のジャンパー、サングラス、そんなダサイヤツはいないだろうと思うと、いるんです。緑のズボン、緑のジャンパー、サングラスの人が立っている。あ、この人だと思って「田中様、お待たせしました」と。

とにかく吉原を卒業すると夜鷹になる。その夜鷹が出る時分に店を出したので夜鷹蕎麦という。俗に二八蕎麦という言い方もする。何故二八蕎麦といったかと申しますと蕎麦粉が八割、うどん粉が二割だから二八蕎麦といったという説もございまして、一杯十六文だから二、八、十六で二八蕎麦というのでもございまして、私はこっちのほうが正しいのではないかと思います。真ん中に風鈴が付いていまして、蕎麦屋さんがこれを担ぐときに腰の使いようでチリンチリンと鳴らしながら歩いたんですね。親バカチャンリン、蕎麦屋の風鈴という言葉があります。江戸の寒い町々を流して歩こうと。

「ソバー」。「おーい、蕎麦屋さん、何ができるんだい」「しっぽく」「じゃあ、しっぽく。熱くしてもらおうかな」。「へい、かしこまりました」、「寒いなあ」、「お寒うございましてね」、「風邪ひいちゃったよ」。「あ、そりゃ大変ですね」、「寒いよ、この間まで沖縄に行っていたからね」、「あ、いいところらしいですね」、「いいところだよ、海がきれいだしね、海だけじゃないんだよ、珊瑚がきれいだよ」、「ホー」、「あのね、夜になると真っ暗の海の中、珊瑚がポーっと青白く光るんだよ。耳を澄ますと珊瑚が歌っているんだよ。ポコンポ

コンと水面に上がってきて、歌いながら踊るんだよ」、「ミュージカルみたいですね」、「サンゴショー(珊瑚礁)というんだけどね」。(笑)「お客さんの作り話ですか」、「そう、俺が作った小唄なんだよ。面白いなら使っていいよ」、「あ、さようでございますか。さ、お待ちどうぞさまでございました」、「世間話している間にずっと出てくる場所なんかいいよ。おいら、江戸っ子で気が短いんだ。いいね、おまえ、気に入っちゃったよ。お、いいね、また割り箸使っているけど割ってないね。近頃、割り箸を割ってあって使いまわしているところがあるんだよ。先っぽにネギが付いていたりしてね。バカヤローと思うところがある。お前んとこはちゃんと割っていない」。「おっ、物は器で食わせろって言うけど、まったくだよ。綺麗な井だね、おい。なんだい、これ、有田焼きの白磁なんかを使っているのかい?」「そんな高級品なんて使っておりません。ただの瀬戸物でございます」、「そうかい、いいね。きれいな井に盛りつけられていると蕎麦が映えるってやつだね」。「あー、鯉節おごったろ。わかるよ俺。俺、蕎麦食いだもん。ニオイを嗅いだだけで、これは鯉節おごったというのがわかるよ」、「ズルズル、アー、うまい。うまいよ、お前。大丈夫かい、こんなに鯉節使っちゃって。経営成り立つのかい?あ、そう。またお前んとこの行灯変わってるな。これなんていうんだい?」、「へえ、手前ども、あたりやって申します」。「あたりや、いいねえ。車にドーンとぶつかって保険金とる、それあたりやじゃねえか。いいね、俺大きな声じゃ言えねえけど、博奕打ちだからね。あたりやなんて相性がいいや。お前んとこの行灯見かけたら必ず飯食うようにするよ」、「へえ、ごひいきに願います」。「いいね、細くていいね。蕎麦っていうのは細いのが値打ちだ。中にはうどんじゃねえかっていうくらい太い蕎麦があるからね。お前んとこのは細くていいね。腕がいいんだね」、「ズルズル。美味しい。コシがあるよ、ポキポキいってる。お前蕎麦打ちの名人だよ、本当にな」、「ズルズル、ウンウン」、「あー、ごちそうさん。もう一杯!と言いたいところだが拍手がまばらだから一杯でいいよ」。「どうもありがとうございました。以上で十六文でございます」、「あ、そうかい。銭が細かいんだ、手を出しな」、「こちらに願います」、「いくぞ、ひい、ふう、みい、よ、いつ、むう、なな、や、蕎麦屋さん今何時だい」、「へい、九つで」、「そうかい。十、十一、十二、十三、十四、十五、十六」ってんでブイっといなくなった。

これを眺めておりましたのがぼうっとした男でして。なんだい、ありゃ。ぼっぼっぼっぼと女みてえにしゃべって江戸っ子じゃないんだよ。江戸っ子っていうのはずっと黙って食ってずっと帰るんだよ。あんなにしゃべるのは江戸っ子じゃないんだよ。いろんなことを言ってやがった。寒いなんて当たりめえだよ、冬なんだから寒いのは当たり前なんだよ。風邪引いちゃった?どうでもいいんだよ。いくつなの?いくつに見えるなんて女くらいに面倒くさい。会話を拒否したくなるよ。割り箸使っていてきれいごとでいいとか鯉節おごったとか、物は器で食わせろとかいろんなことを言ってたな。黙って食えって言うんだ。後生大事にジャラジャラ細かい銭持ってよ。いくらだいて十六文って決まってるんだよ。十六文って。十六文って銭が細かいんだ、手出しな。ひい、ふう、みい、よお、いつ、むう、なな、やあ。蕎麦屋さん今何時だい?へい九つです。十、十一、十二、十三、十四、十五、十六。いや、妙なところで時を聞くじゃねえか。勘定し終わってから聞けばいいじゃねえか。十六まで数えて、今何時だい?って聞けばいいじゃねえか。途中で聞くんだよな。ひい、ふう、みい、よお、むう、なな、やあ、今何時です、九つ、十、十一。なんかおかしいな。あ、あの野郎一文かすめやがった。そうか、これをやりたかったがためにああやってしゃべっていたんだな。アホだな。突然小唄始めたり、変なことを言う人なんだと思わせておいて、いきなり今何時ですと言うとつられて九つですって言っちゃうんだ。そうだよ、黙って蕎麦食って、勘定する時だけ、ひい、ふう、みい、よお、いつ、むう、なな、やあ、蕎麦屋さん今何時です?って聞くとなんで今そんなことを聞くんです?っていうことになるよな。俺だってなるよ。あ、そうか。だからああいうふういろんなことを言ってたんだよ。俺もやってみようかな、と。

あいにくその日は細かい物の持ち合わせがございませんで、あくる日になるとジャラジャラと支度をいたしまして、前の日より早く家を飛び出しまして、俺の毒牙にかかる不幸な蕎麦屋はいないかな?いたいた。「蕎麦屋、蕎麦屋」、「強盗だ、お金ありません」。「強盗じゃないよ。なんで俺が蕎麦屋って言う」と

お前駆け出すんだよ」、「かけ蕎麦になさいですか」、「かけ蕎麦にはしないんだよ、客だからよ。何ができるんだい」、「はじめに申し上げておきますが、当店の蕎麦にはあんこは入っておりませんがよろしいでしょうか」、「いないよ、別に。なんであんこ入りの蕎麦なんか食わないといけないんだよ」、「そんなに太っているのに?」、「いや、体型は関係ないだろう。人を体型で判断するんじゃないよ」、「トッピングで蜂蜜とかもできませんけど」、「いないよそんなの、プーさんじゃないんだから。しょっぱいものが食いたいんだよ」、「あ、しょっぱいものですか。それでしたらトッピングでベビースターラーメンならできますが」、「いないよ、そんなの。蕎麦にベビースターラーメンなんか入れたら変なかんじになっちゃうだろう。何ができるんだい?これとこれができます。じゃあこれにしてくださいと言いたいんだよ。何ができるんだよ」、「え、でしたらできるものは花巻にしっぽく、大変失礼しました。海苔と竹輪です」、「馬鹿にしちゃいけないよ。うちは江戸っ子だよ、親子三代。言われなくても花巻が海苔でしっぽくが竹輪っていうのは知ってるよ。なんで言い直すんだよ」、「すいません、お顔が照ノ富士に似てたものでモンゴルの方かと思まして」、「違うよ。むこうが俺に似ているんだよ、俺の方が年上なんだから。親子三代江戸っ子だと、そう言ってるだろ」、「親子三代ですか?」、「そうだよ。チンギス・ハーン、フビライ・ハーン、照ノ富士」、「その三代じゃねえよ。フビライ・ハーンのがれが照ノ富士じゃないだろ」、「しっぽく、卓袱熱くしてくれよ」、「はい」、「よし、じゃ俺の小唄聞いてくれよ」、「結構です」、「いや、聞いてくれよ、頼むよ。な、あのな、この間沖縄に行ったんだよ。そしたらきれいな珊瑚が歌いながら踊るんだよ」、「サンゴショーってやつですな」、「知ってたのこれ、知ってたのかよ。お前の知らないものにするからな。小太りいさんの小唄知ってるか」、「ええ、昔むかしあるところに、ちょっとだけ太ったおじいさんが住んでいました。小太りいさんという」、「これも知ってたの?じゃお前の知らない小唄考えるからな。これなら、うちのじいさんが風邪引いて医者行って薬もらったんだよ。で、薬飲ましたらじいさん死んじゃって。で医者に怒鳴り込んだんだ。どうしてくれるんだよ、お前のとこの薬飲ましたらじいさん、死んじゃったんだよって。そしたら、でも熱は下がったでしょうと言われたんだよ。」、「お客さん、全然わかんないですよ」、「わかんないなんて言うなよ。客なんだからさ、もっと優しくしてくれよ。なんて世間話しているとずっと出てこないかな、こっちは江戸っ子で気が短いからずっと出てこないかねえ」、「へい。お待たせしました。今、麺が茹で上がりましたので、湯切りをご覧いただきたいと思ひます。天空燕返しです。ほ、よいしょ。はい、お待ちいたしました」、「お前、今落とされたのを拾っただろう。きたねえじゃねえか。ゆで直せ」、「ゆで直しました」、「来た来た。お前んとこは割り箸、割ってあるんだよ。先っぽにネギがついてるんだけど」、「洗ってないんです」、「洗えよ。きたねえじゃねえか。ま、いいよ、こうやって拭くからな。物は器で食わせるというけど、本当だよな。お前んとこのこの丼、きたねえな。カピカピのご飯粒が付いているんだけど、何なんだこれ?」、「私が昼ごはん食べて洗ってないです」、「だから洗えって言うんだよ、客に出す前に。でも、表ピカピカしてきれいだよ。これ有田焼きの白磁なんか使っているのかい?」、「いやそんなの使わないですがね。うちの田舎の窯元から取り寄せた、磁器は磁器ですな」、「なんか名前ついているの」、「イボ磁と申しまして」、「きたねえんだよ、食べ物商売なんだからそんな名前つけんなよ、ばかやろう」、「鯉節使ってねえな、わかるよ、俺、蕎麦食いだもん。ニオイを嗅いだだけでこの蕎麦つゆは鯉節を使ってないってわかるよ」、「うまいよ。うまいよ、うまいけど昆布でもないな。何のダシ使っているの?」、「ベビースターラーメンです」、「ベビースターラーメンか、これ。ベビースターラーメンをお湯に溶かすとこんな味になるの?ま、いいや。蕎麦ってのは細いのが値打ちだよ。中にはうどんじゃないかという太い蕎麦もあるけど。お前んとこ、これはホウトウじゃないのか? 過ぎだろこれ。ちょっと細くする努力しろよ。箸離してみようか。ほら、立つもんこれ。立ち食いそばってあるけど、そういう意味じゃないと思うんだよ。こんなに太けりゃどうやって食うの?ズーズー。途中で切れよ。なんで一本がずっと続いているんだよ。アナコンダがとぐろを巻いているみてえになってるじゃねえか。冗談じゃねえよ、本当に。竹輪、竹輪入っていない?竹輪。いれましたって入っていないから言ってるんだ。ごめんごめん。丼のへりにへば

りついていた。また薄く切ったね。かんなで削ったの？包丁で切りましたって、達人だな、お前。お月さん、透けて見えるよ。サランラップより薄いんじゃないの？、「お客さん、薄い、薄いっておっしゃってますけど、それ、厚揚げですから」、「竹輪ですらないの？これ味がしねえよ」、「ズルズル。二口で食い終わって、なんだよこの蕎麦。冗談じゃねえよ本当に。あー。あとひく。うめえぞ、これ。蕎麦自体激マズだったけど、おつゆ全部飲んじゃったよ。何かベビースターラーメン以外秘密の材料を使っているの？」、「かくし味でけしの実が入ってます」、「アヘンの原料じゃねえか、ばかやろう。そんなもん入れるなよ。もう一杯と言いたいところだけど中毒になりそうだから一杯で勘弁してくれ」、「へい、結構でございます」、「いくらだい」、「十六文でございます」、「おら、これをやりに来たんだ。これが出来れば満足だからな。銭が細かいんだ。手出しな」、「じゃ、こちらにお願いします」、「いくぞ。ひい、ふう、みい、よ、いつ、むう、なな、や、蕎麦屋さん、今何時だい？」「確かよつで」、「よつ？いつ、むう、なな、や」(終わり)

#### <黒岩会長>

私も笑い過ぎまして、今日は腰まで痛くなりました。いかがでしたでしょうか。やっぱり蕎麦というのは江戸の華といいますか、文化でございまして各方面からいろいろな見方、話し方があるのかなと大変勉強になりました。でもやはり数字の数え方もいろいろあるのですね。6に行って3とか4とか数えれば前に進みませんよね。いろいろと勉強させていただきました。今年が皆様にとりまして豊かな年であることを念じ、また馬るこさんも5~6年振りでございましたけれども、久しぶりに楽しい話をいただきました。今後とも時よりおいでいただきましてまた勉強させていただきたいと思っております。

水野パストガバナーそして古内さんもお出席大変ありがとうございました。それでは38回目の例会を終了させていただきたいと思っております。